

[第636回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、会議室での審議を止め、委員全員に書面参加で対応してもらった。書面提出の期日を令和3年4月30日（金）とした。

2. 開催場所 上記参照

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

※ 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため書面参加で対応

書面参加の総数 6名

書面参加の委員氏名

成瀬 國晴	河内 厚郎
たつみ 都志	鎌田 雅子
萩原 章男	内田 透

4. 議題

1) 番組審議（書面参加） 『2021 貝塚みずま春フェスタ特別番組 お夏清十郎物語』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題 1) 『2021 貝塚みずま春フェスタ特別番組 お夏清十郎物語』
について、番組の企画意図・内容の資料をご覧のうえ、番組を聴取
してもらい、書面でご意見を提出してもらった。

6. 審 議 内 容

社 側 <番組資料を送付>

貝塚市ではここ5年ほど、毎年3月に「貝塚みずま春フェスタ」を実施されておりラジオ大阪もリスナーを集めたウォークや公開録音などでタイアップし、リスナーに貝塚・水間の魅力をPRしていますが去年・今年とコロナ禍でイベントが実施出来ませんでした。

イベントが出来ないなら、違った形ですいてつ（水間鉄道）沿線の魅力を「はっしん」する事は出来ないだろうかと考え、今年はお昼の人気番組「Hit&Hit!」の3月に毎日「すいてつ沿線魅力ご紹介コーナー」を設け、事前取材やスタジオ生出演などですいてつ沿線に暮らす人達のナマの声をお届けし、すいてつ沿線により親近感を持っていただく企画を考案致しました。

合わせて、水間寺の愛染堂にまつわる伝説「お夏清十郎物語」を特集した30分特別番組を月末に放送する事で「恋人の聖地」としてさらなるPRを図りました。

「お夏清十郎物語」は約700年前、伏見天皇の勅使として当寺を訪れた山名清十郎と、水間の豪農楠右衛門の娘・お夏の美男美女が「愛染明王」に祈願し、身分の上下を乗り越えて恋を成就させたという伝説です。

昨年10月に貝塚市内でこの「お夏清十郎物語」音楽劇が上演され、まず前半はプロデュースをされた声楽家・角野芳子さんにその劇の音声を交えながら語っていただきました。

後半は貝塚市出身の講談師・旭堂南華さんによる「講談・お夏清十郎物語」のスタジオ実演。

圧倒的な話芸に浸っていただき、700年前の恋物語に思いを馳せていただきます。

<各委員の書面でのご意見>

委員 コロナ禍で外出自粛要請が出され、地域イベントの中止が各地で相次ぎ、気分がふさがちになる中、ラジオを通じて地域のPR、町おこしに一役買おうという番組の狙いは意義深い。ただ、個人的な感想として、貝塚そのものの魅力発信とはやや方向性が違う構成のように感じた。ラジオ大阪では3月中、別番組(Hit & Hit!)でも「すいてつ沿線魅力ご紹介コーナー」を設けて連日発信していたということだが、当番組のみを聴いたリスナーには、「お夏清十郎物語」の印象は残っても、貝塚とはリンクしづらかったのではないかと。30分という時間的な制約もあったと思うが、どこかで貝塚、水間鉄道沿線をPRするコーナーがあってよかったし、外出自粛に配慮されたのかもしれないが、せめてお夏清十郎の墓がある水間寺へのアクセス紹介がほしかった。

昨年10月に貝塚市で上演されたオペレッタ「お夏清十郎物語」、声楽家・角野芳子さんが企画、脚本、作詞、演出を全て手掛けられ、20～80代の市民が出演されたとのこと。地域に根差した取り組みで、地元愛が感じられた。ただ、生で聴けばまた違うのだろうが、放送されたシーンのうち、特に出だしの二重唱やフィナーレは音がややこもっていて歌詞が聴き取りづらかったのが残念。

旭堂南華さんの講談は、お夏清十郎伝説をもとに自作されたとのこと、出会いのシーン、随所にちりばめたくすぐりも面白く、じっくり聴き入った。現代風の語り口だったが、かえってストーリーがわかりやすく入ってきた。「浪花ともあれ浪曲ざんまい」審議の際にも思ったが、講談、浪曲とラジオは親和性が高いと改めて感じる。

委員 「お夏清十郎」というと、姫路を舞台にした「お夏清十郎」の物語で、西鶴が書いた「好色五人女」を思い浮かべる人が多いのではないだろうか？ その件についてMC(和田麻美子)が全く触れていないことに不満が残った。その話をしてからローカルな貝塚の水間寺の「お夏清十郎」である、と話題をふるべきだろう。

コーナー①声楽家角野芳子さんの話

とてもいい番組だと思う。

インタビュー部分と舞台場面のインサートの割合がとてもよい。

角野さんが音楽劇を地元で実行したエピソードは興味深かった。角野さんは話し方がパワフルでありながら、滑舌もよくとても聞き取りやすかった。主演歌手の二重唱が挿入されているのも、美しく臨場感があってよかった。合唱やフィナーレを聞くと、市民がここまで行きつくのには、かなり苦労したのだろう、とほうふつとし、感動した。

コーナー②講談

旭堂南華さんは、普段の話声と講談をするときの声が全く違っていて驚いた（当たり前かもしれないが）

講談を自分で書いた、ということだが、脚本構成もセリフの割合もよく、引き込まれた。

貝塚の水間堂の「お夏清十郎」の物語は詳細が無いのを講談に作り上げ、しかもとても面白く出来上がっていると思う。以下場違いかもしれないが、「講談」そのものに対する意見。

【よかったところ】

- ①「若イケメン」「貝塚の現代デートコース巡り」など、若い人が楽しめる「笑い」の部分もある。
- ②「今度は別の意味で動悸が止まらない」という表現や『えらいはやいことご利益あるわあ』という大阪的ギャグも面白い。
- ③水間のお守り袋というのもアイデアとして説得力があり、地元アピールの広報的活動。
- ④「生きてさえいれば、また会える時が来る」という名セリフ。

【いかななものかと思われるところ】

- ①時代背景を先に言うべき。あとの方になって、後醍醐天皇の時代や南朝北朝、阿倍野の合戦という言葉が出て来て、分かる。
- ②蝶々のアイデアは面白いが、紋白蝶はひと気の多い場面で「床」に留まるのか？
- ③「近所を案内してもらいたい」・・・下っ端に自由時間があるのか
- ④「20年の年月が流れた」お夏は最初何歳？ 18歳として38歳？

委員

貝塚市では、水間寺に由来の伝説を活かして地域活性化につなげているようである。

2017年には、寺の愛染堂が「恋人の聖地」として認定され、去年は伝説を基に作り上げた音楽劇を上演している。

その伝説・「お夏清十郎物語」だが、西鶴や近松が小説や戯曲で取り上げた「お夏清十郎」とは別の恋愛物語である。

音楽劇「お夏清十郎物語」の企画・脚本・作詞・演出の総合プロデュースを手がけた声楽家の角野芳子さんをゲストに迎え、和田麻実子アナウンサーが市民参加の音楽劇づくりについて聞いている。劇中の音源もところどころ取り入れて、分かりやすい。

後半は貝塚出身の旭堂南華が、伝説を基に自身の作になる講談「お夏清十郎物語」を披露する。二人の出会いから恋愛成就まで、10分あまり、その

声を聞くのだが、地の文がやや聞きづらいのはどうしたものか。セリフなど、特にお夏の声はきれいな発語なのに、である。声を潰して地の文を語らなければいけないという決まりが浪曲界にあるのかと思うほど、耳障りで仕方なかった。

和田アナウンサーが、蝶々が二人の出会い・馴れ初めのきっかけとなったエピソードを高く評価していたのは、同感。

番組の最後で、「二人の恋は桜の花のように成就した」といういいお話しですよね、と和田が語って終わるが、この意味がよくわからない。

委員

番組を聴き終わったときの率直な感想は、この物語を紹介することで番組として何を一番伝えたかったのかがわからなかった。

資料では貝塚の魅力を発信するイベントの関連でということだが、そうであればこの物語をきっかけに水間寺のみどころや、縁結びのスポットとしてどんな雰囲気なのか「ぜひ貝塚・水間寺を訪れたい」と思わせるような情報が必要な気がする。

コロナ禍でなかなか「行ってほしい」と言えないのであれば、「コロナが落ち着いたら…」というような感じで紹介できるのではないだろうか。

まず最初のゲストの方が物語の紹介をしたのだが、「美男美女の恋物語」としかわからず、少しボリューム不足だったと思う。ここは和田アナウンサーが簡潔に紹介してもよかったかと思った。

「身分違いの恋」であったことと、離れ離れになるも水間寺の愛染堂で「もう一度会いたい」との願うことで成就したという、この水間寺にとってもっとも大事な話を伝えることができていなかったように思う。

音楽劇ところでは、実際の歌の音源が流れましたが、歌の流れる前に、どういうシーンの歌なのか解説してもらってから聞きたかった。あとは、せっくなので参加された市民の方の感想なんかも聞きたかったように思った。

講談で物語の全容がわかった。普通に喋っている時の声とまた違うお夏の声が可愛らしく楽しく聞いた。

それぞれのゲストの方も、せっかく登場してもらったので、最後に今後の活動を聞いてあげて欲しかったと思った。物語を紹介するだけではもったいないように思う。

最後に水間寺に足を運べるよう、アクセスの紹介などして終わるのがよかったのかと思った。

委員 夙に有名なお夏清十郎物語だが悲恋物語であること以外、わたしにとって運動会で「貫一・お宮」と並んでペア競技のゼッケンでしか馴染みないものだ。

林長二郎（長谷川一夫）、田中絹代で映画化されたのは1936年だし美空ひばり、市川雷蔵の映画も観ていない。

歌舞伎、浄瑠璃、芝居などで演じられる江戸期、姫路城下のものと水間の恋物語とはずいぶん違ふと旭堂南華の講談で分かった。

貝塚市の町おこしとして老若の市民が参加した音楽劇「御夏・清十郎」は、総合プロデューサー角野芳子さんの話と共に合唱もあり臨場感が感じられ大変良かった。

旭堂南華も地もとのことだけに熱演だった。

コロナ禍で恒例の「貝塚みずま春フェスタ」を実施できなかったが、こんな形で貝塚水間の魅力を発信することは、フェスタにくると違った人たちに界隈の観光を周知するために役立つ番組だと思った。

「恋人たちの聖地」として縁結びの神仏以外の新しいスポットになれば良いな。

委員 水間鉄道沿線の魅力を伝える番組ということだが、水間寺の愛染堂という場所とお夏清十郎物語との結びつけがなく、番組が目的に沿ったものになっているか疑問に感じた。最初の物語紹介は地元の史家をお願いするなどきちんと歴史や物語と場所の結びつきを説明した方がよかったのではないか。

また、音楽劇は、放送を予定した録音でないのか声が聞き取りづらくいい劇だという実感がなかった。講談は和田アナウンサーも言っておられたとおり、クソツツ笑えるところもあるいい仕上がりだと思うが、もとの話に深みがないため、ご利益を強調しているなという感想で終わってしまった。

お夏清十郎話は、姫路を舞台とする悲恋の別物語のイメージがあるため、さらっとした恋愛成就の物語として語られることが最後まで腑に落ちなかった。

伝説に基づいた創作モノ2作を並べたことで、必要な情報や物語の深みを伝えきれなかったのではないか。恋人の聖地は、悲恋の地でも成り立つし、場所そのものに魅力がないと足を運んでももらえない。ただ、出演者と地元を盛り上げるために活動している方々には喜んでもらえるのだろうなと思う。

社側 書面での貴重なご意見、ありがとうございました。 以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第636回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」 内で放送
放送日 令和3年 5月 26日 (水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第636回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。